



和歌山県工業技術センター

新所長のあいさつ	1
和歌山県工業技術センターの組織改変について	2
職員の所属及び専門分野	3
平成8年度事業計画	4
プロジェクト研究の紹介	5・6
新人紹介	7
和歌山テクノフェスティバル'96	8



新所長のあいさつ

— 公設試に期待されるもの —

和歌山県工業技術センター

所長 田端 英世

このたび、郷里の和歌山県に勤務することになり、30数年ぶりに紀州で暮らせることになりました。大変に有り難いことと存じております。先ずは、一言ご挨拶申し上げます。

さて、21世紀を間近に控え、世の中ではいろいろな問題が山積・錯綜しております。特に我が国社会の高齢化や若年労働力の減少などは今後益々加速されると考えられますが、天然資源の少ないわが国においては、さらに技術立国を標榜し、発展途上国の追い上げにも負けない先端的な研究開発によって、経済的な基盤を確立してゆくことが肝要であります。

これは、民間・国・大学など産官学何れのレベルにおいても、それぞれの立場に応じた形で遂行してゆく必要がありますが、当和歌山県工業技術センターのような公設の試験研究機関においても、その期待される役割は決して小さいものではないと自負しております。

従来、公設試においては、地場産業に対する技術相談・指導、依頼分析などが主要な業務でありましたが、最近では中小企業でも高度な技術開発能力を備えたところが簇出しており、公設試の方でもさらに進んだ研究開発能力を要求されるようになっております。

このような状況に対応するために、各地域（都道府県）の公設試は工業技術試験場から工業技術センターへの脱皮を図ってきております。当センターにおきましても、社会的要請にこたえるべく、平成元年には工業技術センターとして新しい一歩を踏み出し、その後いくらかの変遷を経て本年4月からは新しい組織を発足させました。また、今年末には、実証棟の完成が予定されており、数年間にわたって続けられてきた施設の整備が、本館・研究棟などを含めて完成する運びとなっております。

これから先は、「新しい革袋に新しい酒を盛る」ことによって、目標を達成するために邁進して行かねばなりません。前所長のご努力によって本年度から「基本技術」の予算化が行われ、センターの研究者が地域産業に目を向けた先進的な研究に取り組める制度が準備されました。今後は「開かれたセンター」、「技術の交流するセンター」、「信頼されるセンター」を目指して地域の産業界からの期待に十分応えられる組織として飛躍発展に努める所存であります。産業界を始め地域社会の皆様方には、今後とも暖かい目で見守っていただくとともに、何なりとお気軽に相談に来て頂きますようお願いしてご挨拶に代えさせていただきます。

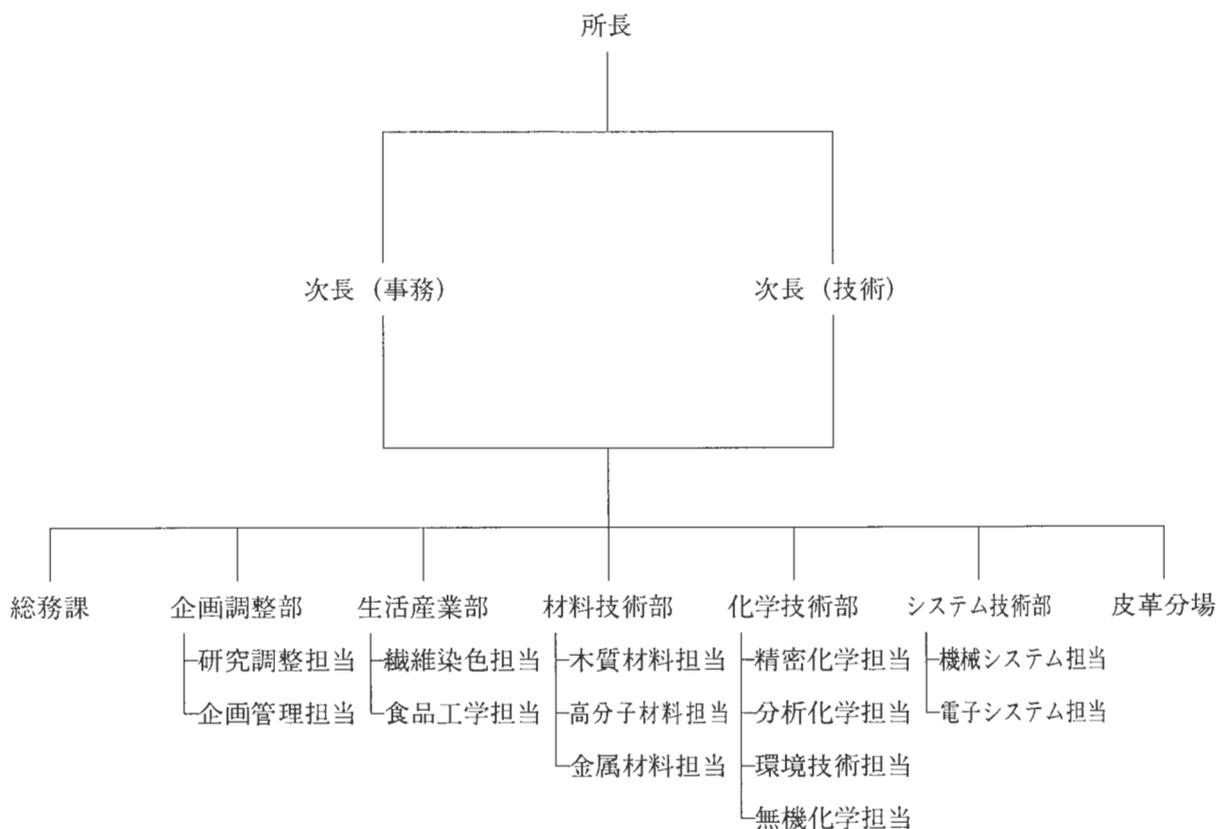
和歌山県工業技術センターの組織改変について

和歌山県工業技術センター

和歌山県工業技術センターでは、平成8年4月1日から新たな組織でスタートいたしました。新組織は、部が一つ増え、1課5部1分場で12担当となっています。各部及び各担当の構成は、技術分野別を基本としました。又、企業からの相談等で担当分野が分かり難いときは、各部に総括責任者を設けましたので、先ずご相談下さい。

これからは、新組織体制のもと「開かれたセンターづくり」「技術の交流するセンターづくり」「信頼されるセンターづくり」を基本指針として、21世紀へ向けて、県内産業の技術力向上のために企業関係者の皆様と共に誠心誠意取り組む所存でありますので、宜しくお願い申し上げます。

〔新組織図〕



〔総括責任者〕

企画調整部	主任研究員	岡本 良作
生活産業部	主任研究員	谷 正博
材料技術部	主任研究員	久保田静男
化学技術部	主任研究員	谷口 久次
システム技術部	主任研究員	中村 嵩

職員の所属及び専門分野

(平成8年6月2日現在)

所 属	担 当 名	職 氏 名	専 門 分 野
		所 長 田端 英世 1) 事務次長 小谷 正 技術次長 藪内 武	結晶化学・セラミックス 繊維機械
総 務 課		課 長 西奥 重光 主 事 山下 裕子 主 事 堺 加奈子 用 務 員 西岡 堅 用 務 員 片山 貴子 用 務 員 中村 浩規	
企画調整部	(研究調整担当) (企画管理担当)	部 長 上川二三雄 主任研究員 (総括) 岡本 良作 4) 主査研究員 山口 和三 4) 研 究 員 下林 則夫 4) 主 任 山中 健次 主 査 島 秀之	繊維材料・繊維物性 画像処理・自動化システム 高分子物性・高分子加工技術 有機合成 テクノ振興財団出向 テクノ振興財団出向
生活産業部	(繊維染色担当) (食品工学担当)	部 長 南 広己 主任研究員 (総括) 谷 正博 主査研究員 由良 好史 主査研究員 角谷 秀昭 主査研究員 大萩 成男 4) 研 究 員 山本 芳也 研 究 員 由井 徹 主任研究員 中内 道世 主査研究員 池本 重明 5) 研 究 員 山西紀早子 研 究 員 尾崎 嘉彦 3)	醸造技術・発酵食品 染色加工・繊維製品評価 分析化学 織物技術・繊維評価 色彩応用技術・染色加工 編成技術・繊維評価 工業デザイン・グラフィックスデザイン 食品分析・食品加工 応用微生物・生物工学 食品分析・栄養学 食品化学・応用微生物
材料技術部	(木質材料担当) (高分子材料担当) (金属材料担当)	部 長 神前 寿 主査研究員 北口 功 主査研究員 播摩 重俊 研 究 員 梶本 武志 主任研究員 (総括) 久保田静男 2) 主査研究員 伊藤 修 4) 主査研究員 永坂 博文 主査研究員 新山 茂利 主査研究員 田口 義章 研究補助業務員 花坂 寿章	繊維機械・製編技術 デザイン 木材加工・計測技術 木材工学・木質環境技術 機能材料・繊維高分子材料 高分子合成化学・複合材料 金属材料・金属分析 金属材料・金属分析 金属材料 機械技術・金属加工
化学技術部	(精密化学担当) (分析化学担当) (環境技術担当) (無機化学担当)	部 長 内田 昌宏 主任研究員 (総括) 谷口 久次 2) 研 究 員 野村 英作 2) 研 究 員 細田 朝夫 4) 主任研究員 中岡 忠治 研 究 員 高垣 昌史 研 究 員 松本 明弘 主査研究員 中岡 元信 研 究 員 高辻 涉 研 究 員 阪井 幸宏 4) 主査研究員 小畑 俊嗣 研 究 員 今西 敏人 研 究 員 中本 知伸 4)	高分子材料・高分子系複合材料 有機合成・有機化学 有機合成・有機化学 (海外研修中) 有機合成・高分子化学 分析化学・機器分析 応用化学・合成繊維製造技術 応用化学 排水処理・分析化学 生物化学工学 遺伝子工学・分子生物学 セラミックス セタミックス・無機材料 応用物理
システム技術部	(機械システム担当) (電子システム担当)	部 長 田村 禎男 主任研究員 (総括) 中村 嵩 主任研究員 林 健太郎 研 究 員 坂下 勝則 主任研究員 前田 裕司 2) 研 究 員 上野 吉史 研 究 員 石野久美子 6) 研 究 員 井口 信和 5)	染色加工・コンピュータグラフィックス 機械加工 精密測定・精密加工 (テクノ振興財団派遣) 生産機械・自動化システム 電子工学・数理工学 電子工学・EMC 人工知能・教育工学 情報工学
皮革分場		分 場 長 石原 矩武 副分場長 元吉 治雄 5) 主査研究員 古田 茂 研 究 員 前田 拓也	皮革化学 皮革化学・タンパク質化学 メカトロニクス セラミックス・無機材料

1) 理学博士 2) 工学博士 3) 農学博士 4) 工学修士 5) 農学修士 6) 教育学修士

和歌山県工業技術センター“W I N T E C”平成8年度事業計画

☆新規事業

工技センターの基本理念 “技術先導・成果提案をモットーに”

- a 「開かれたセンターづくり」
- b 「技術の交流するセンターづくり」
- c 「信頼されるセンターづくり」

科学技術振興と活力ある豊かな地域社会の形成

開かれたセンターづくり

- 1 試験分析事業
各種依頼試験分析・技術調査等を行う。
- 2 技術相談
- 3 技術指導事業
 - 1) 技術普及講習会
 - 2) 技術アドバイザー事業
技術専門家及び工業技術センター職員による技術指導
- 4 零細皮革産業指導事業
- 5 皮革産業研修事業
- 6 工業技術開発会議
学識経験者・業界代表者等を招へいし工業技術センターの方向性、開発すべき基本技術等を審議する。
- 7 研究開発成果普及
技術情報誌発行、研究報告を発行し成果の普及を図る。
- 8 工業技術センター再編整備完了記念事業☆
工業技術センターの再編整備の完了と創立80周年を記念して、記念誌の発行・地域経済振興シンポジウム等を行う。
- 9 広域技術情報ネットワーク推進事業
工業技術センターの情報受信能力向上のためインターネットを利用した技術情報提供

技術の交流するセンターづくり

- 1 プロジェクト研究（補助事業）
 - 1) 未利用資源活用事業（平成8年度～10年度）☆
未利用資源から有益な物質を抽出し、有効に活用し、木質機能性材料の開発を行う。
 - 2) ニット集積活性化支援事業（平成7年度～9年度）
ニット業界の新分野進出を支援するため研究開発を実施する。
 - 3) 機械金属集積活性化支援事業☆
繊維機械及び染色機械業界の活性化を支援するため、生産工程の合理化、新分野開拓の研究を行う。
 - 4) 広域共同研究事業（平成6年度～8年度）
熱硬化性樹脂系産業廃棄物の高度利用技術の開発を行う。
 - 5) 新地域技術おこし事業（平成6年度～8年度）
平成6年度から7年度に実施した「CG技術を利用した質感によるハイタッチ表面加工技術開発」事業の成果普及を行う。
 - 6) 高付加価値化支援事業
先端機器を導入し、幅広い技術の蓄積と先端技術の普及
- 2 産官学共同研究 8テーマ（継続、新規を含む）
実用化が高く望まれる技術開発項目を企業から募集し、産業界、工業技術センター及び大学が共同して研究開発を行う。
- 3 環境技術研究開発事業（平成8年度～10年度）☆
工場排水の窒素及び燐規制に対応するため、窒素・燐除去技術の開発を行う。
- 4 地域技術活性化支援事業☆
本県地域産業の活性化を図るため、新技術の研究開発を行う。
- 5 受託研究
企業からの研究委託
- 6 中小企業技術者育成・研究生受け入れ

信頼されるセンターづくり

- 1 基本技術研究開発事業☆
県内地場産業の技術力強化・育成を図るため、工業技術センターが主体となり将来の技術の基本となる技術を確立する。
- 2 客員研究員招へい事業
大学教授等をセンターへ招へいし、研究手法、研究内容等の指導を受ける。
- 3 能力向上研修事業☆
研究員の資質向上を目的に行う研修
- 4 交流研究員制度
大学教授等との交流を深め、相互研鑽による研究・開発力の向上を図る。

工業技術センター再編整備事業

財団との連携

- (財)和歌山テクノ振興財団
- 人材育成事業
 - 研究開発支援・機器利用技術手法・ハイテクセミナー・技術研究会
 - 情報提供事業
 - 技術情報サービス・技術ライブラリー
 - 交流支援事業
 - 和歌山技術推進協議会・テクノサロン・異業種交流支援・県内外視察
 - ・新商品開発販売塾・技術フォーラム
 - 起業化支援事業
 - インキュベーター事業・産業振興支援
 - 共同研究促進事業
 - 産業振興支援・大規模イベント
 - 財団職員体制
 - 専任 7名、賛助会員 147社 技術振興基金 8億9,300万円

地域に密着した研究開発及び先端技術への対応

《プロジェクト研究の紹介》

未利用資源活用事業

テーマ 指定課題：新しい木材処理技術を用いた木質材料の開発
分担課題：新規木質処理剤の開発及び熱処理による木質機能材料の開発

研究内容

(1) フェルラ酸を用いた木質材料処理剤の開発及びその用途開発

フェルラ酸の化学的・物理的特性を見極め、抗菌作用、抗酸化作用、紫外線吸収作用の特性を活かした製品開発を行い、木質材料の新規処理剤として使用します。このようにして開発した木質材料の評価試験を行ないます。さらに、フェルラ酸を基礎原料にして種々の有用な物質の開発を行ないます。

(2) 熱処理法による木質機能性材料の開発

木材など有機材料を熱変換によって炭化する場合、炭素化の過程で結晶構造が重要な示唆を与えられます。そこで、結晶構造の整った天然炭素材料の基本的特性について検討し、高機能性複合材料への適用の可能性を探る。さらに、活性炭製造法にある賦活を試み、気相・液相において環境浄化のための吸着性を有する材料としての用途拡大を指向します。

ニット集積活性化支援事業

本県のニット業界は、市場占有率34%で全国1位となっています。しかしながら、円高及び中国、韓国、タイ、インドネシア等アジア諸国の台頭により厳しい状況におかれています。

これを踏まえ、本事業は平成7年度より集積地域の活性化を目的に産、学、官が一体となり、工業技術センターも、これを支援するため製産工程の合理化や品質向上の研究に取り組んでいます。

(1) 生産工程の合理化として

従来手書きで生地のはしに反番等を記入していたものを自動的に印字する「反番印刷及び現場管理情報印刷システム」の開発と編機への糸の供給を自動で行う「糸の自動供給システム」の開発を行ないます。

(2) 品質向上として

現在、生地風合については、勘（感覚）で判断していますが、これを客観的に評価できる基準を作成して、数値管理ができればニット生地の品質向上と安定化に寄与できると考えられます、これを目的に「ニット生地風合同等品質評価の標準化」について研究します。

また、ニット生地へのプリントに、水や大きな装置を必要としない方法として注目されている「インクジェット方式による柄付け」の研究も、プリント機器において多くの課題をかかえています。問題点を抽出してメーカーとともに改良することで商品として耐える柄ニット生地を簡単に提供することができ、従来の生地提供ニット産地から新分野への進出が可能になると考えています。

今年度は2年目に入り基礎研究からシステムの構築、ソフト開発の研究に取り組んでいます。

機械金属集積活性化支援事業

本県の染色整理機械製造業は、綿ネルの生産及び染色整理業と結びついて発展してきました。近年では多種多様な機械及びその部分品を製造する産地として、地域経済の発展に寄与しています。

しかし、技術高度化の必要性や、国内市場縮小による価格引き下げ競争の激化、円高等による海外メーカーとの競争といった本集積をとりまく厳しい経済環境の変化に十分対応できていないのが現状です。そこで、本年から「技術の高度化・特殊素材の活用・製品の独自性の確立による高度産業用機械及び同部分品の製造に係る分野」と設定して機械金属集積活性化支援事業を実施することとなり、工業技術センターも県内産業の知識集約型高付加価値型産業への転換を支援するため新加工法の確立及び信頼性の向上の研究に取り組んでいきます。

(1) 新加工法の確立として

染色整理機械等に用いられるロールは摩耗・腐食等による寿命低下が問題となり、これを解決するため、その原因究明のためのシュミレーション、接合部の素材の研究及び接合部の溶接技術研究、耐久性に優れたロールの開発等「長寿命布帛走行系部品の開発」、「機械部品への新たな材料の適用」について開発研究に取り組みます。

(2) 信頼性の向上として

布帛走行時の位置制御、風合い等を管理するための布帛のテンション制御機構の開発を通じて、染色整理の前工程における布帛・安定走行のための位置制御技術、乾燥むらを防ぐための水分率・乾燥率の制御技術の研究を行い、一貫自動化機械の信頼性を支援します。

広域共同研究事業

指定課題：高分子系産業廃棄物の高度利用技術に関する研究

分担課題：熱硬化性樹脂系産業廃棄物の高度利用技術に関する研究

本事業は、平成6～8年度の三ヶ年間、近畿圏の7公設研究機関（滋賀県工業技術センター、大阪府立産業技術総合研究所、兵庫県立工業技術センター、奈良県工業技術センター、和歌山県工業技術センター、京都市工業試験場、大阪市立工業研究所）が共同で、大阪工業技術研究所の指導のもとにプラスチック、ゴム、繊維の産業廃棄物のリサイクル技術について研究開発する。和歌山県では熱硬化性樹脂産業廃棄物を粉砕、表面化学処理して利用するマテリアルリサイクル技術及び分解してモノマー、オリゴマーにもどして利用するケミカルリサイクル技術を開発しています。

具体的には、漆器素地等用いられる尿素樹脂産業廃棄物の再利用及びボタン等に用いられる不飽和ポリエステル樹脂産業廃棄物の再利用の研究を行っています。

尿素樹脂廃棄物は微粉砕し、ホルマリンで処理して粒子表面にメチロール基を導入して、これを新しい尿素樹脂に40部混入し、尿素樹脂に対して95%の曲げ強度を持つ再生樹脂が得られた。

不飽和ポリエステル樹脂廃棄物は微粉砕し、グリコールにより分解して、得られた分解物をグリコール成分として、無水マイレン酸、無水フタル酸と反応させ、不飽和ポリエステルを再合成しました。これにスチレンを加えて成形すると曲げ強度132.2MPa（市販樹脂92.1MPa）の再生樹脂が得られた。

今年度は再生樹脂の用途開発を研究します。

新地域技術おこし事業

平成6年度からスタートした本事業も3年目の最終年度となります。この間に導入した質感シミュレーションシステムと質感評価システムを活用した研究開発成果を県内地域産業に導入することで、県産製品の表面質感での優位性をより確実なものとする事ができます。

平成8年度は研究開発成果の県内中小企業への技術移転を図るため、研究成果普及事業と企業化技術指導事業に取り組みます。

（研究成果普及事業） テーマ：CG技術を利用した表面質感設計によるハイタッチ表面加工技術開発

本事業の研究成果の普及は、地域技術おこし事業報告書の作成とそれを教材とした技術普及講習会（1回）の開催や技術研修（随時）の実施により、家庭用品製造業、漆器製造業、繊維機械、精密加工業などの企業に普及します。また、「感覚評価と製品開発技術フォーラム」では感覚評価をとおして質感の基礎から応用までの研究会で製品開発担当者の資質向上を図ります。

（企業化技術指導事業） テーマ：CGによる質感表現と表現された質感の加工技術に関する研究開発

応用化技術研究開発を委託した和歌山県生産技術開発協同組合の各企業が本事業の研究成果を企業化できるよう指導し、表面の特長計測とCG技術から質感を評価し、新しい表面の質感を持った新製品の開発研究を進めます。

高付加価値化支援事業

平成8年度設置予定の電子パターンファブリックシステムとは、デザイン画、写真等の画像情報をコンピュータに取り込むスキャナー、取り込んだデザイン画を織柄用に分解・拡大・縮小・合成・配色替え等がCRT画面上で編集可能な製織用コンピューターグラフィックシステム（CGS）、編集織柄分解図・模様をプリントするカラープリンター、編集織柄をタテ糸整経なしで試織出来る織機（オサ幅50cm・片側レピア方式）の構成からなり、ジャガード用ギャントリーを併設したドビー、ジャガード両用機となっています。

本システムは、CGSで編集した織柄組織分解図より、従来のタテ糸選択用紋紙の製作は勿論、数百枚にも及ぶ紋紙をディスクに記憶させ、これによるタテ糸選択が可能な電子ジャガード織機用フロッピー製作も可能な先端機器を搭載しています。

機械金属工業の技術水準の向上を図るため、ワイヤカット放電加工機システムを導入し、金型から、部品加工、難削材試作部品等各種金属材料加工及び技術研究を行います。また、NCカットオフマシンの導入とブリネル硬度計の更新を行い、金属材料技術を支援します。

ワイヤカット放電加工機システムは
ワイヤカット放電加工機（NC制御）
プレス金型用CAD/CAM
スタート穴加工機

から構成しており、多様な加工ニーズへの対応と放電加工機の特徴を活かした部品開発等で高付加価値化を支援します。

〈新人紹介〉

はじめまして

生活産業部 尾崎嘉彦



本年4月1日付で、和歌山県工業技術センターに配属され、生活産業部で食品工学を担当させていただいております。工業技術センターの再編整備が完了するこの時期に、スタッフに加えていただいたことを大変光栄に思い、また感謝しております。

大学卒業後本年3月までの9年間、民間の研究機関に勤務し、主として食品加工廃棄物の有効利用に関する研究を担当してきました。この間に、食品成分の化学、あるいは食品加工への微生物酵素の利用などに関する知識と経験を身につけることができました。今後はセンターの様々な専門分野の先輩方の御指導を頂ながら、新しい分野にも積極的にチャレンジして行きたいと思っております。

ますます複雑化する現代社会において、個人の価値観もますます多様化してきています。しかし健康に対する思いは、人類全体に普遍的なものであると言えるでしょう。健康の維持と日常摂取する食品の密接な関係、また和歌山の恵まれた自然環境と調和した産業のあり方などを下地にしながら、少しでも地域社会に貢献できるよう努力を重ねるつもりです。また、できる限り現場のお話を聞かせていただいて、研究成果の産業への還元を常に心がけながら仕事に取り組みたいと思っています。よろしく御指導下さるようお願いいたします。

プロフィール 昭和61年3月 大阪府立大学農学部農芸化学科卒
平成6年10月 大阪府立大学博士(農学)
平成8年4月 和歌山県工業技術センターに入所
趣味 旅行、パソコン

私の経歴と抱負

化学技術部 細田朝夫



本年4月1日付けで、工業技術センター化学技術部精密化学担当に配属されました。

大学ではオリゴペプチドの合成とコンホメーションの解析を行い、また、大学院では有機リン化合物の合成と光化学反応に関する研究を行いました。

大学卒業後は化学メーカーの合成樹脂研究部門に6年間勤務し、反応性液状樹脂(建築用シーリング材、弾性接着剤等のベースポリマー)の新規合成方法の開発と企業化を担当してきました。

工業技術センターでは、これまでに学んだ知識と企業での経験を生かし、一日も早く戦力になれるようがんばりたいと思っております。

また、県内企業、各種業界の状況、センターとのつながりについても今はわからないことばかりですが、これから勉強していきたいと思っておりますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

プロフィール 平成2年3月 大阪大学大学院工学研究科
プロセス工学専攻前期課程修了
平成8年4月 和歌山県工業技術センターに入所
趣味 スポーツ観戦、ドライブ、ゴルフ

これからの抱負

化学技術部 阪井幸宏



本年4月1日付けで、工業技術センター化学技術部環境化学担当に配属されました。

大学では、卒業研究・修士研究及び博士研究で一貫して分子生物分野、特に遺伝子工学を中心とした「Pseudomonas aeruginosa(緑膿菌)のリン酸認識に関する研究」というテーマで研究を行ってきました。これは、1 μ mほどしかない微生物(緑膿菌)がどのようにして外界のリン酸を感知・認識し、どのような情報処理を行うことによってそれに応答しているのかを分子レベル(タンパク質レベル)で解明しようという研究でした。

私自身は今まで環境に関する研究を行ってきたわけではありませんが、排水からのリン酸の除去、亜リン酸の除去、窒素化合物の除去あるいは赤潮藻の研究など環境に関する研究にも力を入れていた先生のもとで得た知識・経験を活かして頑張りたいと思っております。

まだ配属されたばかりで、和歌山の染色、化学工場等から出る排水の実態や、企業をはじめとして和歌山が、どのような問題を抱えているかなどわからないことがたくさんありますが、私の持っている力を全て発揮し、努力していくつもりです。社会に出て日も浅く、皆様に迷惑を掛けることが多いと思っておりますが、御指導のほど宜しくお願い致します。

プロフィール 平成8年3月 広島大学大学院工学研究科工業化学専攻博士課程後期退学
発酵工学講座 培養工学研究室(生物情報工学研究室)
平成8年4月 和歌山県工業技術センターに入所
趣味 スポーツ(特に野球、バドミントン、始めたばかりのゴルフ)

私の抱負

企画調整部 島 秀之



本年4月1日付けで地域振興課より工業技術センター企画調整部に配属され、同日付けで財団法人和歌山テクノ振興財団に出向しました。

「テクノ」という言葉は、県の長期総合開発計画の基本目標に「テクノ&リゾート」とあるように、本県活性化のためには重要な「キーワード」ですが、その活性化施策の具体的な推進は非常に難しい問題です。

「テクノ」の名前をつけた和歌山テクノ振興財団は、地域産業技術の振興を図るために人材育成事業、交流支援事業、起業家支援事業等を行っており、これらの役割は、今後益々増大すると考えられます。

財団ならではのフットワークの良さを生かし、地域産業の振興に貢献するために、少しでも役立ちたいと考えております。

財団では、和歌山技術交流推進協議会や和歌山県異業種連絡協議会の事務局等を担当いたします。

まだ、財団の業務に慣れていないため、手探りの状態ですが、慣れてしまっていないことが良さでもあると思いますので、財団業務に少しでも新風を吹き込めるよう、今まで培ってきた僅かなばかりの経験と若い感性（財団では一番年下です。）を生かしていきたいとおもっています。

どうかご指導、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

プロフィール

昭和60年3月 同志社大学法学部法律学科卒業
 昭和60年4月 和歌山県に入庁
 平成8年4月 和歌山県工業技術センターに異動
 同時に財団法人 和歌山テクノ振興財団に出向

趣味 テニス

和歌山テクノフェスティバル'96

〈開催計画〉

日時：平成8年7月15日（月）

13：00～19：00

場所：紀の国会館

プログラム

13：00 開会

13：10～14：50

演題「ニュービジネスを創れ」

講師：常葉学園浜松大学教授 坂本光司氏

15：00～17：00

◆第一分科会

(メカトロ・情報処理技術)

◆第二分科会

(化学・新素材・加工技術)

◆第三分科会 (バイオ・食品技術)

◆展示コーナー

17：15～

交流会

〈事務局〉〒649-62 和歌山市小倉60番地

県工業技術センター内

(財)和歌山テクノ振興財団

担当：島

TEL0734-77-5230 FAX0734-77-5425

平成8年6月1日付人事異動

	新	旧
本田皓一 (8.6.1)	通商産業省工業技術院 生命工学工業技術研究所 分子生物部長	所長
田端英世 (8.6.2)	所長	通商産業省工業技術院 名古屋工業技術研究所 セラミックス基礎部部长

編集後記

平成8年度の「和歌山県工業技術センター編集委員会」の委員長及び委員は下記のメンバーです。テクノリッジが新しい技術情報を1つでも2つでも県内及び県外企業に与えられるよう頑張っていきますので、御愛読下さい。(下林)

委員長 上川二三雄
 委員 山西妃早子、田口 義章、
 中岡 忠治、坂下 勝則、
 元吉 治雄、下林 則夫

平成8年6月20日印刷 平成8年6月28日発行

TECHNORIDGE 第217号

編集・発行 和歌山県工業技術センター

和歌山市小倉60番地

TEL(0734)77-1271 FAX(0734)77-2880

皮革分場

和歌山市雄松町3丁目45番地

TEL(0734)23-8520 FAX(0734)26-2074

印刷所 西岡総合印刷株式会社

TEL(0734)25-1341 FAX(0734)36-0855